

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0170502348	
法人名	有限会社 レイコ	
事業所名	グループホーム 涼風	
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号	
自己評価作成日	平成29年2月16日	評価結果市町村受理日 平成29年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jiyosyoCd=0170502348-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

涼風の理念である「ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心し、又、安全に生活を送ることが出来るよう支援する」のもと、スタッフは常にご利用様のことを考え、ニーズ等に沿った支援を行えるよう努めています。利用者様の誕生日には、フロア内で誕生日会を実施し、ケーキを提供したり、プレゼントを贈呈する等、個々を尊重する支援も行っております。季節の行事毎にレクリエーションを行い、ホームで生活しながら、季節を感じることができ、利用者様に楽しんで頂けるよう、実施しております。又、全居室に障子等を完備し、和風をイメージしたお部屋ということもあり、落ち着いた雰囲気生活できるよう工夫もしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、豊平区中の島の閑静な住宅地にあり、地下鉄南北線南岸駅から徒歩圏内に位置した2階建て2ユニットのグループホームである。事業所の近隣には、精進川の河畔公園や豊平川があり、散歩などが楽しめる自然環境である。法人は、医療法人に勤務していた代表者が平成15年に独立して、当事業所を開設したもので、現在は、児童発達支援・放課後デイサービスも運営している。当事業所は、蓄電熱を活用した暖房で、ホーム内は暖かく、温度や湿度に配慮しており、居室は、窓には障子や壁も和風にして、落ち着いた雰囲気の工夫をしている。リビングは採光や風通しもよく、台所からは、ホーム内が一瞥でき職員にも配慮している。1階フロアの理念は「一人一人に合った生活、個性の尊重」、2階フロアは「毎日の笑顔、利用者一人一人に役割を楽しみを持って頂く」とあるように利用者一人一人を尊重し、個々に寄り添ったケアに努めているグループホームであり、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念、フロー理念を居間に掲げ、いつでも確認できるようにし、全職員で理解し、支援に繋げている。	おだやかに暮らしてもらうことを基本にした事業所理念とユニット毎の理念を掲示して、ミーティングの時に確認して、実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には、入会しているが、地域の方とはほとんど顔を合わせる機会が無く、交流が少ない。	散歩の時に挨拶を交わしたり、お祭りのみこしが来てくれるが、近隣に住む人達とふれあう機会が少ないので、今後は法人で開設した児童デイとの交流を予定している。	町内会活動が停滞しており、参加する機会がないが、北海道マラソンやお祭りなどへの関わり、児童デイとの交流やボランティアの活用など地域との交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、挨拶程度しか交流がなく、今後町内会等を活用し、交流を深められるように努める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は実施できていないが、今後実施ができるよう努める。	包括や町内会長、民生委員には協力してもらえるので、今後は2ヶ月に1度のペースで実施する予定である。	地域包括支援センターや町内会長など地域の方の参加協力が得られる予定なので、今年度から運営推進会議の定期的な開催を行い、運営状況の報告や意見交換を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当の方に相談等あれば、連絡を取り、協力頂き、サービス向上に努めている。	札幌市の担当者とは日頃から情報を共有し、相談にも対応してくれるなど協力関係を築いており、連携を深めるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の業務の中で禁止となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。ドアの施錠については、安全面を考慮し、希望があれば解錠する対応を取っている。	マニュアルをもとに身体拘束をしないケアの確認をして、禁止の対象となる具体的な行為の理解を図るためにスピーチロックについての説明や職員に個別で対応して実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から話し合える機会を作り、必要時は、勉強会も開催し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている利用者様があり、職員も理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安が残らないよう、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、意見や要望を聞く機会を設けている。	毎月、本人の様子を手紙で報告している。家族が訪問した際には何でも言ってもらえるよう、雰囲気づくりに配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務で問題点があれば、フロアー主任が聞き取り、管理者、ホーム長と話し合いを行い、検討している。	全体会議の場で意見を聞くほか、日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に残業のない体制を取っており、安心して働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、問題点や改善点があれば、話し合い等を行い、外部研修にも参加できるように努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年度は実施できていないが、今後実施ができるよう努める。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば、ホームで面談を行い、不安を解決できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来設して頂き、話し合いの場を設け、些細な事にも、耳を傾けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、病院、施設等より、情報を頂き「初期生活支援計画表」を作成し、状況に応じた支援を行えるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の想いを汲み取り、その人らしい生活ができるよう、対応に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、利用者様の近況を書面にて報告し、共に情報を共有できるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、ご家族様や知人の方に気軽に面会して頂ける環境作りに努めている。	知人や友人が数日に1回程度と訪ねてくるので、気楽に面会でき、継続的な交流が出来るよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレクリエーション等でフロアーに集まれる機会を作り、孤立される事がないよう、支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様よりご要望があれば、必要に応じた支援を行っている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの視点に立ち、表情や行動、言葉から想いを汲み取り支援できるよう努めている。	フロアシートを参考にしたり、日々のかかわりの中で声掛けして、把握に努めている。会話や表情などからもそれとなく確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にライフヒストリーを記入して頂き、暮らしぶり等の情報を、ご本人様やご家族様より得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やフローシートに細かく記入することで利用者様全員の様子や変化を共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングシート、カンファレンスシートを作成し、ご本人様やご家族様の意向や希望を確認し、ご本人様に合わせた介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。課題分析シートも活用してカンファレンスで検討し、計画を作成している。定期的なモニタリングで見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やフローシートに日々の利用者様の様子を記入し、情報を共有する事で介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の高齢化に伴い、状況やニーズに柔軟に対応できるよう多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の意見や必要に応じ、民生委員や警察、消防、教育機関等の協力を頂きながら、支援できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に適切な対応ができるよう関係を築きながら、緊急時に対応できる体制が整っている。	協力医療機関は24時間体制で、2週に1度は医師の訪問診療がある。また、個々の病状に合わせた医療機関を受診できるよう、職員が同行して支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況に応じ、相談を行い、指示を受けられるよう体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今後の治療方法等、主治医、ご家族様、職員と話し合いの場を持ち、情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の想いを早い段階から聞き取り、事業所でできることを説明している。	重度化や終末期に向けたあり方については、事業所ができる事を入居時から説明を行い、その都度話し合い、医療機関とも連携して方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように全職員に会議等で周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、避難訓練を実施できていないが今後マニュアルを作成し、体制を作りができるよう努める。	避難場所である小学校には、災害時、利用者が不安にならないよう別部屋をお願いして協力を呼びかけている。防災グッズの準備はしているが、避難訓練を再開することで体制を整えていく予定である。	災害時の利用者の避難場所の確保や火災時の避難訓練の定期的な実施、備蓄や災害用備品も整備し、地域の方や家族の参加協力により災害対策を行うことを期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で利用者様の人格を尊重し、親しみやすい言葉掛けに注意し、対応できるよう努めている。	尊敬の念は失わないように配慮しながら、以前の呼び方や要望を聞いて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に希望を伝える事ができるような声掛けに注意し、想いを伝えることが困難な利用者様には表情等から汲み取り、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	業務を優先せず、一人ひとりのペースに合った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに合わせ、季節感を感じられるよう、身だしなみに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に合わせ、無理のないよう家事仕事を手伝って頂いている。	普段は食事の下ごしらえや後片付けを一緒に行っている。また、誕生日のトメニューは利用者と相談して決めるようにしたり、BBQや焼きとうきび、焼きいもをしたりして食事を楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分量を記録し、全職員で確認し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて、うがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録しており、時間時に声掛けやトイレ誘導を行っている。訴えのない方には、行動や体動等に配慮し、不快感の無いよう支援している。	個々の排泄パターンを把握して声をかけしたり、時間を見計らってさりげなく誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回乳製品を提供し、体操に参加して頂いたり、水分提供を促す等自然に排便できるよう配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1週間に2度入浴を行い、拒否見られる方には、時間や曜日、職員を変更する等、楽しんで入浴して頂けるよう支援している。	入浴は週2回程度だが、希望や体調に合わせて楽しんで入浴できるよう支援している。清潔を保つよう臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に合わせ、午睡を取り入れ、夜間安眠できるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等、服薬表にて全職員が確認している。又、変更等ある場合、再度服薬表を確認し、把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、レクリエーションや家事等に参加して頂くことで、日々張りのある生活を送って頂けるよう支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は希望があれば、公園に散歩に出かけている。冬季は、外出の機会は減るが、ご家族様に協力頂き、外出や買い物等に出かけている。	希望に沿って、職員が同行して近くの公園へ散歩に行っている。家族と協力しながら、買い物や外食に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される利用者様もいらっしゃるため、ご家族様同意のもと、小銭を持っていらっしゃる方もいるが、基本のお預かりし、都度の対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話できる体制を取っており、ご家族様の都合等も把握し、連絡を取りやすいよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、トイレ、水回等の消毒を1日数回実施し、清潔を保っている。又、車椅子でも自由に行動できるよう、スペースを確保し、季節感を盛り込んだ装飾等で居心地のよい空間作りに努めている。	台所から居間・食堂を見渡すことが出来るので、利用者の表情や動きが把握しやすいようになっている。蓄電熱を活用した暖房設備で、温度・湿度そして清潔には配慮しており、居心地よく落ち着いて生活できるよう生活感や季節感ををほどよく採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、テレビがあり、ご自身の好きな場所でゆったり過ごして頂けるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や日用品を持参して頂いており、居心地よく生活して頂けるよう居室作りに努めている。	居室は窓が障子で壁も和風となっており、ロッカーや棚が設置している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでいる。本人の希望を活かして安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた配慮を考え、安全に、できるだけ自立した生活ができるよう支援している。		